

《入選》

車いすの人々が

住みやすい町

中央中学校 一年

伊藤 明莉 さん

私は、今回の授業で障がい者の人々が本当に住みやすい町になっているのか、疑問に思いました。一回目の授業で一枚の写真を見ました。車いすの人が公園のトイレの前で困っている所や、公園に入るのに段差があり、入りにくそうにしている所がパツと目に入りました。ショッピングモールなどでは車いす用のトイレをみかけますが、公園では車いす用のトイレをみたことはありません。しかも段差があることに気がつきました。ふだん、そんなことを思ったことがありません。

せんでしたが、この学習を通して思い返しました。実際に車いすの人が困っている所は見たことは、ありませんが本当に困っていないのかという場所ばかりが想像できました。

この前、家族と出かけました。服屋さんに入ると車いすの人専用の更衣室を見ました。車いすの人専用の更衣室は初めて見たので、正直おどろきました。中は通常より広かったです。車いすの人が入りやすいように段差もなかったです。スロープもついていました。他は私たちが入る更衣室と同じように、鏡があり、小さいイスがありました。私は、お母さんと、「車いすの人達でも入りやすいように設計されているのは、すごいなあ。」と話していました。この時、思えば車いす用の更衣室は無かったと思つたし、こういうのがあればなんてこ

とも思っていました。この更衣室があれば車いすの人達も、欲しい服があればこの更衣室を使つて、ためすことができるんだと思ひました。あたり前に使つていた更衣室でも、車いすの人達は車いす専用の更衣室が出来るまでは、欲しい服があつても、ためにに着てみることは出来なかつたんだなと思うと、すごくありがたかつたんじゃないかなあつて思ひます。

このように、車いすの人々は少しの段差やせまさで行ける所が、かぎられてくると欲しい服が買えなかつたり、トイレに行けなかつたりすることをこの授業や、家族と出かけた時に感じました。自分たちは、ふつうにしていることでも車いすの人達は出来ないことも多いんだなあと思ひました。でも、そういうことばかりでは無くて、少

しずつであつても障がい者の人達が住みやすい町になつてきていることを感じています。